

2021 年度支部活動【四国支部】開催報告  
「WITH コロナの四国の日本語教育～これまでとこれから～」

主催：公益社団法人日本語教育学会  
共催：国立大学法人愛媛大学 国際連携推進機構 国際教育支援センター  
後援：公益財団法人愛媛県国際交流協会  
開催日：2021 年 12 月 25 日（土）13:00-16:40  
会場：オンライン  
参加人数：74 名（会員 21 名，一般 59 名）

12 月 25 日（土）に四国支部活動「WITH コロナの四国の日本語教育～これまでとこれから～」をオンラインで開催しました。今年度は四国では初めて「四国内優先」申込期間を設けた結果、例年以上に四国各県の地域日本語教育関係者の参加がありました。当日は、第 1 部は「2021 年度日本語教育学会秋季大会参加報告会」、第 2 部はシンポジウム「同じ？ いえいえ、けっこう違う！ 四国の地域日本語教育 各県の取り組み」という 2 部構成でした。

第 1 部の「大会参加報告会」は、四国の支部活動として、春と秋の学会大会後に毎回開催しています。今回は第 2 部のシンポジウムと連動する形で、地域日本語教育に関わる内容を中心に報告しました。一方、四国内の学会員の協力で実現した第 2 部は、各県の地域日本語教育の現場に関わる事例報告が中心であったためか、四国内外の地域の日本語支援者だけでなく、行政関係者の参加もありました。質疑応答時には、積極的にお互いの悩みや情報の共有が行われ、コロナ禍中、そしてコロナ後の地域日本語教育を考える貴重な機会となりました。

支部活動終了後の参加者アンケートでは、「4 県全県の取組を一気に拝見できてとても満足」等好意的なコメントも多かった一方で、「コロナ後対面に戻っても、オンラインで参加できる選択肢を残してほしい」「（参加費無料であっても）発表資料は参加者にも配布してほしい」等、今後の運営上の課題につながる意見もありました。今回の支部活動は、四国内の日本語教育関係者のネットワーク構築のきっかけとなることを第一の目的としていました。その意味では、参加者の過半数が四国内で占められたこと、その多くが地域の日本語支援者・行政関係者であったことで、当初の目的は達成できたと思われます。次年度以降は、今回生まれた「つながり」を活かし、今後も地域に開かれた支部集会・支部活動を継続していきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の支部活動は、愛媛県・四国内の運営協力員をはじめとする多くの方々のご協力のおかげで、このような有意義な形で開催し、終えることができました。あらためて当日ご参加くださった皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

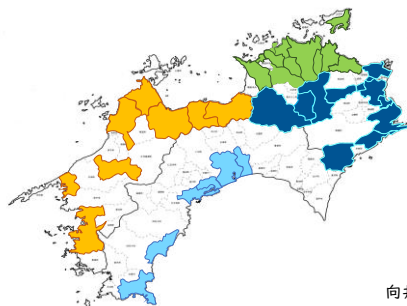
（報告者：四国支部活動委員：高橋志野・元木芳江）

四国各県の地域日本語教室情報 ①

本日の報告の流れ

「地域の日本語」に関する内容を中心に

1. 一般公開プログラム（無料で誰でも参加可）
2. 地域発信企画（無料で誰でも参加可）
3. 日本語学習サイト「つながるひろがる  
にほんごでのくらし」（通称：つなひろ）説明会



向井作成

今回は大会の地域日本語教育に関連した発表の報告を行いました

色がついているのが四国の地域日本語教室が行われている市町です